

2008年12月にボルドーで行われた Vinitech 展示会でヒアリングを中心に、最新動向をまとめたもの。一般情報については「ワイン栓の選択肢、スクリーキャップ? 合成コルク? 天然コルク系?」(http://www.kitasangyo.com/e-Academy/wine/wine_closure_column.pdf 2007年11月作成、A4判12ページ) を参照ください。

★印のあるものは、供給・またはサンプル出し・またはサプライヤー紹介が可能です。きた産業の企画開発 G までご照会ください。

<選択肢1：天然コルク系>

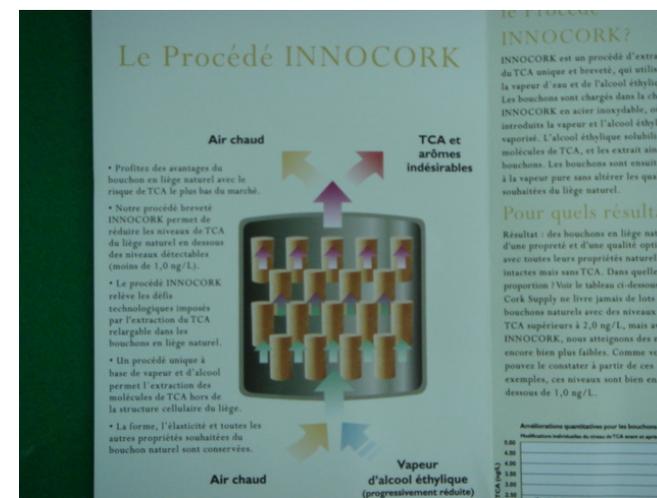
天然コルク: AMORIM (アモリム) 社 ★

- 蒸気による TCA リムーバルプロセス、Rosa プロセスは、「1+1」などには全量導入済みだが、「天然コルク」にはまだ対応していない。「設備を準備中、現在、計画の半分程度」といっていたので、1~2年以内には開始するのではないか。
- 一方で、「森からコルク樹皮を取得して以降のプロセスの洗い直しで、最近の TCA レベルは十分低くなっている、平均で 1ppt を切り込むレベル」、とアピールしていた。



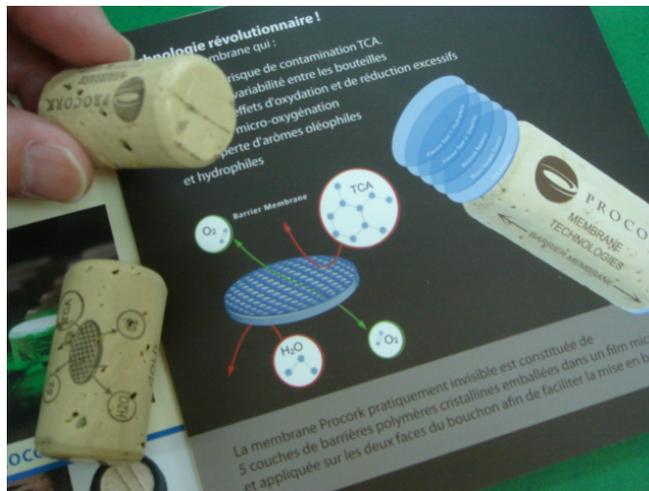
天然コルク: Innocork (イノコルク) (Cork Supply 社) ★

- アルコール蒸気による天然コルクの TCA リムーバルプロセスの商業生産を開始。販売価格は、従来コルクと同一(!)とのこと。現時点では、むくの天然コルクで、商業生産ベースの TCA 除去は、これのみだと思う。
- Cork Supply 社は、「コルク樹の森からの品質管理」でも嚆矢。最大手のアモリムの対抗馬となってきたように見える。



天然コルク系: Procork (プロコルク) 社

- 天然コルクの両端に透明のメンブランを貼りつけたもの。メンブランは、酸素は透過するが TCA は透過しない、とのこと。
- (個人的感想) オーストラリア・オリアジンの会社。ヨーロッパの展示会に出てくるのは初めてではないか。オーストラリアではスクリーキャップ全盛で市場がないせいもあるだろう。それにしても、素材に使っているコルクの「見た目」が良くない。



テクニカルコルク: DIAM (ディアム) (OeneoBouchage 社)

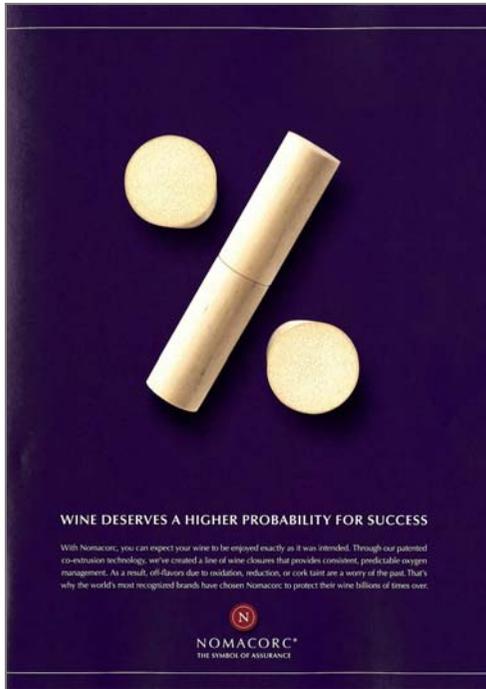
- 超臨界 CO2 ガスによる TCA リムーバルプロセス。あくまでテクニカルコルク(コルク粒をバインダーで成型したもので、「天然コルクに DIAM プロセスを行う計画はない」、と言っていた。
- 「P1」と「P10」という、二水準の酸素透過度を準備。
- 外観がハンデ。天然コルク風のプリントしたバージョンを出した。また、T トップ(シェリーやウィスキー用など)に力を入れている。



<選択肢 2: 合成コルク>

合成コルク: Nomacorc (ノマコルク) 社 ★

- 合成コルク最大手の地位は不動。酸素を主要論点にしており、[O2inWine]という産学合同研究会を立ち上げている。(メンバー: ノマコルクのほか、酵母のラルマン、UC Davis、AWRI、INRA など。08年6月にモンペリエで最初の会合。09年1月にはチリで行く由)
- ノマコルクの最大ユーザーであるガロが、日本を含む一部の国向けにスクリュエキャップにスイッチしたが、総数量はまだ増加傾向。



Wines & Vines 2008 March の広告から

合成コルク: Nucork など

(Nucork など合成コルク大手数社が展示していたが、特にトピックスはないので省略。)

合成コルク「トピックスとして紹介 1」: Guala Seal (イタリア)

- こんな複雑な構造を実現(企業化)してしまうことに脱帽。(スクリュエキャップを作っている金属キャップ大手 Guala Closuresとは別の会社)
- 実は、この栓は、日本で買ったワインに使われているのを見たことがある。



合成コルク「トピックスとして紹介 3」: Ringocap (イタリア)

- 側面シール技術をウリにしている。まだ、新しく参入してくるか、と感心。新工場社屋を建てて、これから売り込むとのこと。
- 「トピックスとして紹介」の4つともイタリアの会社。国による特性を感じる。



合成コルク「トピックスとして紹介 2」: Korked (イタリア) ★

- 酸素透過メンブランを内蔵したカプセルを、貫通穴の中に装着したもの。昨年話した時には「上下の穴を同一サイズにする計画」、といていたが、まだ穴サイズは違ったまま。
- たぶん5年以上開発を続けている資金力と努力に脱帽。
- 当社も2008年に最新バージョンのサンプルを試験をしたが、「穴がある」こと自体がネック。



合成コルク「トピックスとして紹介 4」: Starkorck (Aplast, イタリア) ★

- この会社は通常の合成コルクも作っているが、ここで紹介するのはシャンパン用。樹脂の炭酸ガス透過性は結構高い。下手をしたらシャンパンのガスが抜けてしまう。
- 炭酸ガスバリアー性の高い樹脂で、かつエアスティックなものを、これだけ大きな塊で成型するのは、さぞ難しからう。



<選択肢 3：スクリーキャップ>

スクリーキャップ: StelVin(ステルヴァン) (ALCAN 社) ★

- 合成コルクのノマコルク、天然コルクのアモリム、と同じく、スクリーキャップの最大手として、余裕の展示。
- 酸素透過度を上げたライナーの仕様を出さないか、、、は聞き忘れた。
- 従来通り、印刷のみの「ステルヴァン」と刻印の「ステルヴァン・プラス」、プラスチック製のスレッド内蔵の「Lux」のシリーズ。「プラス」のほうが、受注ロットが小さい、というマーケティングが(ワインキャップシュール設備の流用とは言え)、見事。



Wines & Vines 2008 March の広告から

スクリーキャップ: Global Cap (Guala Closures Group 社)

- ALCAN(スクリーキャップ)の対抗馬はいくつかあるが、その代表例。
- スレッド内蔵タイプもあるほか、ワインびんのネックをまねた「バルジ」タイプもある。(写真)



スクリーキャップ: Novatwist(ノバツイスト) (Novembal 社) ★

- 全プラスチックのスクリーキャップ。成型は極めて難しそう。2年前と昨年は、試作段階での展示だったが、商業生産体制が整ったよう。
- 残留するスカート部がプラスチックのため、日本市場に良い!(金属残留に比べるとはるかにいい)
- Novembal はテトラパックの子会社で、合成コルクも相当量を作る大手。だけに、有望。
- 「PET ボトル」に装着するデモも。「PET ボトル」ワインは今年の日本向けボジョレーで使われていたが、環境対応で注目されている。この点でも有望。



スクリーキャップ: Korked Spin ★

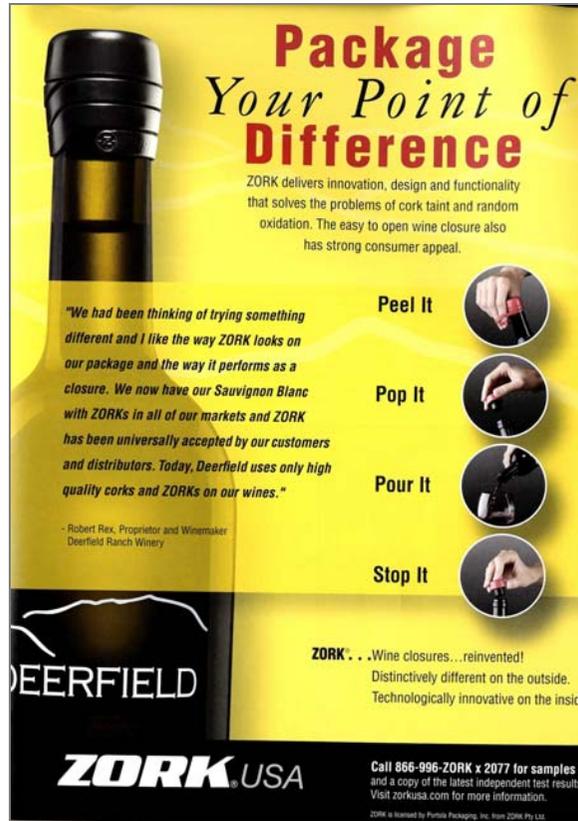
- 合成コルクのKorkedと同じブランド名で、昨年からのマーケティングをしている。スクリーキャップの天面に3つの穴をあけ、ガス透過性をコントロールしたメンブランを内蔵させたもの。いくつか、実績が付いている模様。
- 酸素透過度の異なる、二つの仕様を準備している。



<選択肢 4：その他>

その他の選択肢：Zork(ゾーク) 社 ★

- 昨年、イタリアの SIMEI 展示会ではイタリアのライセンサーがブースを確保していたが、Vinitech では展示なし。フランス人のセンスには合わない?
- オーストラリア・オリジン(オーストラリア)の会社だが、Procork と同じ理由で、アメリカとヨーロッパに活路を求めている。実際、相当例の採用がある由。
- 開発は停滞しておらず、シャンパン用、ウイスキー用など、新製品をラインアップしてきている。
- きた産業では「Sake Zork」(日本の一升壺用 Zork)を共同開発中です。



Wines & Vines 2008 March の広告から

その他の選択肢：Vino Lok

- Vinitech では展示なし。ドイツを含む世界のアルコール・クロージャ社が、2007 年末にニュージーランドの CSI に売却された影響で、マーケティングが停滞しているのか。市場では、一定の顧客がいるものの、特に増えているように見えない。
- 透明のパッキン材部分の酸素透過性を改善しようとしている、と聞いていたが、その後の情報は不明。

★印のあるものは、供給・またはサンプル出し・またはメーカー紹介、が可能です。きた産業の企画開発 G までご照会ください。お客様の選択判断に資するよう、当社ではさまざまなワイン栓に関する最新情報を収集しディスクローズするよう努めています。

クレジットのない写真は、各社の資料やサンプルをきた産業で撮影したものです。

(end of papers)